

古希を迎えて 過去を振り返り人口減少を憂う

東京秋工会 副会長
会報KANASA 編集長

加賀谷 健治

(昭和36年電気科卒)

今年古希を迎える事になりました、この機会にこれまでの人生を振り返り、今後の生き方を考えてみたいと思います。

私は、1943年3月30日に秋田市寺町3区(現大町4丁目)に生まれ、47年に聖心幼稚園に入園しました。そして49年旭北小学校に入学しましたが、早生まれのため未熟で学校では遊び場のように振舞い、いつも廊下に立たされていました。

55年山王中に入學しました。勉強嫌いの劣等生で成績は下位を低迷しており、3年2学期の進路指導で先生から受験出来る高校が無いと通告されました。これでは大変と一念発起し、遊び仲間と訣別し、国、算、英、理、社を毎日欠かさず1教科1時間、計5時間猛勉強を開始しました。その頃山王中では毎月の試験結果を成績順に氏名を廊下に貼り出しておりましたが、試験の都度成績順位がうなぎ昇りに向上し、受験直前には1学年730名中トップクラスとなり、高校受験の資格を得ることが出来ました。

58年に秋田工業高校電気科に入學しました。部活動は放送部でした。勉強は元の一夜漬けに戻り、趣味のラジオやアンプの組み立てとアマチュア無線に没頭しました。就職希望は弱電メーカで、最初に学校に面接に来た富士通信機製造(株)(現富士通(株))を受験し合格しました。当時の富士通は知名度が低く周囲の人々には運送会社に就職したと思われました。

61年富士通に入社し、伝送装置の機器設計に配属されました。最初は、趣味で給料がもらえる良い会社と思っていましたが、高卒は課長にもなれないことを知り、63年神奈川大学第2工学部電気工学科に入学し、67年に無事卒業しました。

富士通では夜間大学卒業者は大卒と認めないこともあり、卒業後独立の気概で辞表を課長に出したところ、希望する事をやらせると遺留され、すぐ開発部門に配転されました。そこで、テレビ電話、心電図伝送など担当しました。68年食品コンビニート内の多数の工場を一括監視するセキュリティシステムを提案し、受注後にシステム開発し、1970年無事完成しました。

この後、超高層ビルが建設され始めたのに合わせ「ビル管理システム」の開発を命ぜられました。省力・省エネ・安全性向上を目的に、ビルの集中監視制御装置の構想を手書で提案書としてまとめ、売込みを行い大阪の大手商社の本社ビルの受注が決まりました。建築設備の知識が少なく設備メーカに聞きながら監視制御の設計をして、納期遅延で迷惑をかけながら72年に完成しました。開発した「ビル管理システム」の特徴は、最先端のグラフィック表示と、データ伝送による配線工事の大幅な削減でした。省エネと省力化効果が認知され、新宿西口超高層ビル群では占有率が50%、全国でも30%を占めた事もありました。84年に開発した日本初の日本語

を採用した「ビル管理システム」では、予想を5倍も上回る受注で、人員増強しても即戦力にならず、多数の物件を抱えさんざん苦労しました。その後、システム設計者として、多数の人々に効率よく働いてもらうため「文書化」に注力しました。「文書化」は会報KANASAの編集会議でも行っています。

富士通では課長、部長にして頂き、2000年に39年間務めた富士通の管理職定年になり、富士通製品の販売会社富士テレコム(株)に迎えて頂き、ビル管理とセキュリティの販売を行いました。

08年に富士テレコムの役員を離任し、社会とのパイプを継続するため環境システム開発株式会社を設立しましたが、12年古希を契機に会社を休眠会社としました。これまで、ご指導、ご支援、ご協力して頂いた多くの方々に感謝申し上げます。

さて、今年「古希」を迎えましたが、現在日本男性の平均寿命が79.6歳では、70歳は祝うほど希少価値は無く、むしろ日本の高齢者の増加が社会問題となっており、複雑な心境です。

そこで、「少子高齢化」の実態を調べてみました。

《少子高齢化》問題：下の「図1日本の人口推移」は、日本の年齢層の分布図です。縦軸が年齢層で上の黄色の範囲は75歳以上の後期高齢者、下の黄色の範囲は15歳から64歳の現役世代です。横軸の棒グラフ1本は5歳単位の合計人口です。



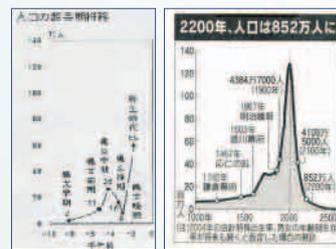
図1 日本の人口推移

(参考：HP「日本人の人口推移からみる生き抜く方法」から引用)

後期高齢者1人を何人の現役世代が支えるのかを右に示します。2050年には、年齢構成が「逆ピラミッド」状になり大問題です。

1950年：7.7人
2010年：5.7人
2050年：2.1人

《少子化》問題：下の「図2人口の超長期的推移」の右は、04年の1人の女性が一生に産む子供の平均数と男女の年齢別生存率が将来も続くと仮定した場合の推定です。



このままでは、日本人は下のよう減少し続け、「絶滅危惧人種」になりそうです。

2008年：12,808万人(100.0%)
2100年：4,109万人(32.1%)
2200年：852万人(6.7%)

図2 人口の超長期的推移

(参考：HP「人口の超長期推移」及び日経新聞から引用)

上の「図2左」に示すように、紀元前3世紀に、縄文人が気候の寒冷化と渡来人が持ち込んだ疫病で8万にまで減少し縄文文化が消滅しました。同様な事が再現するのではないかと心配です。

人口の急激な減少は、バブル経済崩壊後の長期不況とグローバル化の進展により、非正規雇用者(H11年労働市場の35%)の増大⇒生活基盤の不安定⇒未婚者の増大⇒出生率の減少と、問題が連鎖した結果だとの事です。この傾向は今も続いています。

人口減少に歯止めをかけるのは、グローバル化に対抗できる新規産業を興隆して、正規雇用者を増大させる必要があります。

私は、08年から秋田県サポータクラブの「企業振興育成WG」に参加しており、今後も微力を尽くしたいと思っています。